

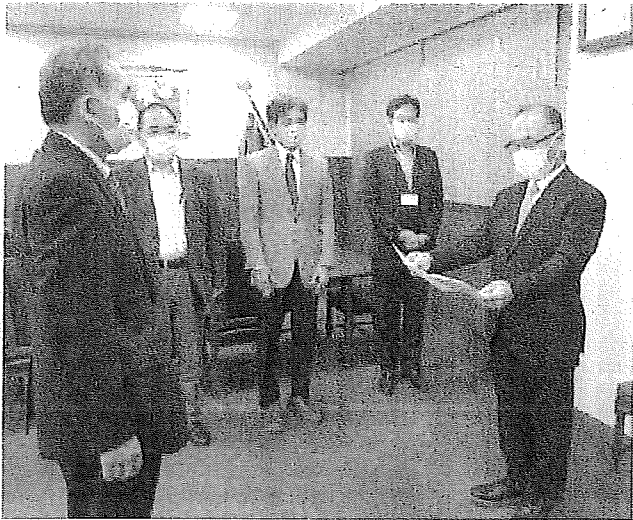
コロナ感染症対策に 同窓会が米子高専に寄付金

コロナ感染症対策に 同窓会が米子高専に寄付金

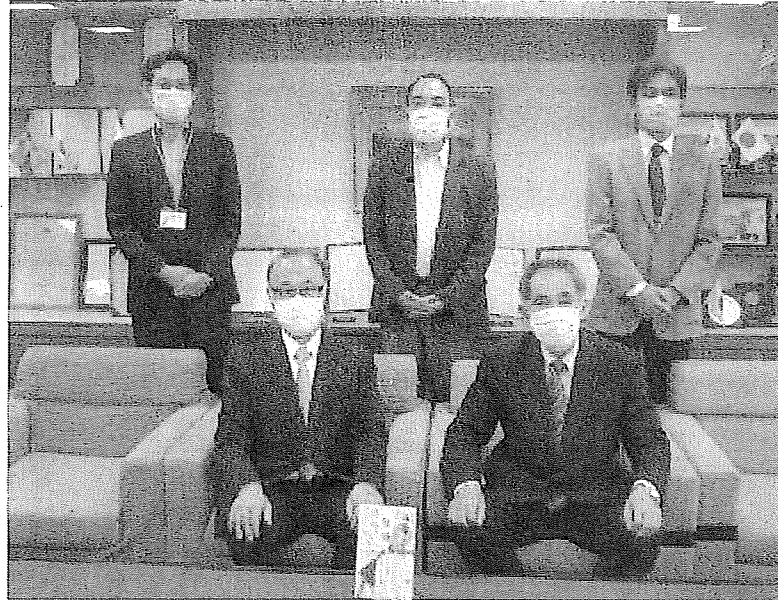
米子高専では去る5月19日、新型コロナウイルス感染症の対策に役立ててほしいと、米子高専同窓会（本部・関西支部・中部支部・首都圏支部）を代表し、大谷文雄会長から寄付金が贈呈された。

贈呈式では、大谷同窓会会長が挨拶し、寺西恒宣校長に目録が手渡された。大谷会長は、「新型コロナウイルス対応で学校の方も大変だと思えます。先週から遠隔授業が始まり、さまざまな対応で学校や学生さんに負担が生じているとお聞きしました」と学生らの現状に対する心配の声をかけた。その上で、「そこで、同窓会では、学校に役立てていただく」と予算の中から寄付させていただきました。在校生への対応の支援に活用していただきたいと思えます」と述べた。

寺西校長は、「自らのこともたい



寺西校長④に寄付金を贈呈する
大谷会長⑤



贈呈式に出席した大谷同窓会会長（前列左）、寺西校長（同右）ら

へんな時に、母校や後輩たちのことを心配し支援してくださる卒業生の篤い気持ちに感謝します」「このたびの寄付を活用するにあたり、見えない敵コロナウイルスに対し、命懸けで対応してくださっている医療関係の方々とともに、医療機器の開発設計、病院等の建築はじめさまざまな分野で、卒業生の方々が高専で学んだ専門知識を役立て貢献していることや、いつの時代にも逆境を克服し時代の先端を開拓してきた先輩たちの高専スピリッツも、学生たちに伝えたいと思います」と謝辞を述べた。

さらに、「米子高専は、大学と同様に、全国から学生が集まっているため、現在遠隔授業が行われています。高専が得意とするICT活用に関するノウハウ（導入方法や教育効果等）を地域の学校に提供し、地域の発展にも波及させていきたいと思えます」と、一層の教育研究の充実や地域貢献を誓った。